

第4回向日市総合計画審議会会議 議事要点録

日 時	平成21年2月20日(金) 午後1時30分から午後3時40分まで
場 所	向日市役所3階 大会議室
出席委員	別添「第4回出席者名簿」参照のこと
欠席委員	5名
傍聴者	5名
内 容	下記のとおり

1 議 事

(1) 新総合計画「基本構想(第3次案)」について

「資料 向日市新総合計画『基本構想(第3次案)』」に基づき、将来都市像(案)を中心に事務局から説明が行われた。また、「資料 市民公募委員提案 将来都市像(案)」について、市民公募委員から趣旨説明が行われた後、基本構想(第3次案)全体について審議された。

【意見の要旨】

ア、将来都市像について

委 員：我々、公募委員が提案した2つの案の趣旨について説明しておきたい。これからの10年間を考えると、夫婦2人世帯がいつまでも住み続けたいと思われるようなまちづくりを目指すためには、まず「やすらぎ」が第一であり、人と人を支える「ふれあい」が大事である。また、これに「いにしえから未来へ」というフレーズを加えることにより、躍動感と”歴史のまち=向日市”というイメージを示した。

委 員：私は事務局「案1」が簡潔であり、市民にも理解されやすいと思う。これからの10年を考えると、まず重要なことは「活力」である。「活力」あるまちで子どもを育て、将来に向かって魅力あるまちづくりを行うことが大事である。また、「～7.67むこう～」を、漢字で「向日」と表記する方が、外に向かってアピールできるのではないかと。

委 員：私も同意見。まず、都市に「活力」がないと「やすらぎ」も作り出せない。現在の経済情勢なども考慮しても、経済活動や観光など、人とまち全体を活発にしなければならないと思う。

委 員：「いにしえから未来へ・・・」というフレーズは抽象的でイメージしにく

いと感じた。私もやはり都市基盤の整備や税の増収など、市が経済的に潤っていかないと、今後、向日市がまちとして持続していかないとと思うので、やはり「活力」が重要だと思う。

委員：これからの時代は、いかに便利に快適に暮らしていけるのかが問われてくる。そのためには、道路などの基盤整備が重要で、それに加えて人々が便利さを享受できるような、コンピューター教育や語学力の育成などの教育に力を入れていくことが必要。

委員：事務局「案1」が一番シンプルで覚えやすい。また、「みんなでつくる」という言葉に市民協働も表現されており、私はこれが一番適当だと思う。「活力とやすらぎ」については、この並びの方が「走ってから止まる」のように、言葉の流れが自然で理解しやすい。歴史的な視点を加えるのなら「みんなでつくる」の後に、「歴史」という言葉を加えれば良いのではないか。

委員：「やすらぎ」か「活力」か、どちらが先かは難しいところだが、「居住」して「定住」したいと思われるようなまちを目指すことを基本に考えると、やはり「やすらぎ」が先になるのではないか。お金が大事なものは尤もだが、ビジョンとしてまず金ありき、でいいのだろうか。

委員：“やすらぎ”、“活力”、“みんな”など、事務局「案1」のフレーズはどこにでもある内容で、向日市をイメージできる言葉が見当たらない。それゆえに、市民公募委員（案）では「いにしえから未来へ」という言葉で、市の歴史をイメージさせて、歴史文化を中心とした住みよいまちづくりを目指すよう願いを込めて提案した。

委員：「活力」を第一と言っても、この狭い市域でどうやって企業を誘致し、産業を育成するのか。また、事務局「案1」には教育や文化の視点が感じられない。

委員：市民公募委員提案の「築こう いにしえから未来へ」という言葉は、市の歴史や時代が流れているような躍動感があり、将来への希望が感じられて良いと思う。また、事務局「案1」の「みんなでつくる・・・」という言葉も好きなので、どちらを選んで良いのか困っている。

委員：時の流れということなら、事務局「案3」も個人的には良いと思う。

委員：「活力」という言葉は企業誘致や産業育成に限定された意味だけではなく、人と人が広く交流して、まちが賑わっていかねばならないという意味で私は理解している。決してお金を生むためだけの意味ではなく、夢や希望をもてるような将来の向日市を作っていくための推進力、原動力としての「活力」だと捉えてはどうか。

会長：ひとつの言葉に様々な意味を含ませることが可能であり、言葉の意味を議論していけば際限がない。言葉の理解は幅広に解釈することにして、各委員にそれぞれ良いと思われる案をひとつ選んでいただいて、決を取りたいと思うがいかがか。

（特に反対がないため、挙手による多数決により、事務局「案1」が将来都市像として採択された。）

会長：それでは、当審議会として将来都市像を『活力とやすらぎのあるまち～みんなでつくる7.67向日（むこう）～』と決定したい。

委員：この将来都市像のなかに、「安心・安全」や「にぎわいと活力」は見い

だせるが、3つ目の基本政策である「人を育む」が包括されていないように思える。

委員：これまでの議論の意見にもあったように、「活力」のなかに人材づくりも含まれていると理解すれば良いのではないか。

イ、「基本政策」について

委員：アンケート調査にも見られるように、「歩道が狭い」などの住環境づくりについての意見が多いので、基本政策のなかで住環境についてもっと触れても良いのではないか。

委員：道路整備ひとつにしても、具体的にどう整備していくのかというアイデアがなくては、これまでのように、掛け声ばかりの絵に描いた餅になってしまう。

委員：基盤整備が遅れているのは事実。市の努力として、どんなことをしても取り組んでいくのだという気概がなければ達成は困難だろう。

事務局：12ページ中の基本政策の1つ目「安心・安全」には、ユニバーサルデザインやバリアフリーも想定しているが、第3次案では明確に道路整備まで踏み込んで表現していない。今後策定する基本計画（案）とも関連することから、表現の仕方も含めて再度検討したい。

委員：同じく12ページ中のなかで「協働」から「協力」に表現が変わったの何故か。

事務局：前回の審議会において委員の方から、この文脈では「協働」が何を示しているのか明確でないという指摘をいただいたため修正をしたが、将来都市像において「みんなでつくる～」と表記しているように、大きな方針として市民協働によるまちづくりをこれからも行うことには変わりはない。

委員：「互いの」「助け合いと」「協力」は意味としては同じことを表していないか。「助け合い」が市民同士を想定しているなら、「協力」はやはり「市民と行政による協働」の方が良いのではないか。

委員：14ページ中の「不安や負担を解消して」という表現だが、不安は解消になるが、負担は「軽減」と表現する方が正しくないか。

委員：この文章に続く「地域全体で子育て～」だけでも十分意味は通じるので、表現に迷うようならば、前段部分は削除しても問題ないと思う。

会長：次回までに事務局で一定整理されたい。

ウ、「土地利用構想」について

委員：10ページ冒頭の「コンパクト」という表現が曖昧なので、もっと具体的に表現した方が良い。また、「歴史・文化・健康軸」の説明のなかに、市の特徴である竹林や長岡京史跡も入れるべきだと思う。

向日市は市域が狭いので、「歴史・文化・健康軸」を南北に伸ばすなど、市域外との繋がりを意識する必要がある。

事務局：土地利用構想については、現在、別部局において都市計画法に定める「都市計画マスタープラン」を策定中である。軸線の表記を含めて、「都市計画マスタープラン」と整合を図りながら検討したい。

(2) 向日市新総合計画まちづくりシンポジウムの開催について

「資料 向日市新総合計画まちづくりシンポジウム企画案」に基づき、事務局から説明が行われた。

【質疑等】

委員：前回のシンポジウムの参加者は何人くらいか。

事務局：おおよそ40～50名くらいである。今回も同程度の人数を想定してシンポジウムを開催したいと考えている。

会長：特に意見もないようなので、市民公募委員の方には可能な範囲でシンポジウムの開催に協力願いたい。

2 次回審議会の日程調整について

次回は、4月14日(火)午後1時30分から市役所3階大会議室で開催予定。

以 上